

03

川西市地域分権推進事業 ニュースレター

第3回地域夢・未来カフェ in 川西

地域分権制度の検討の一環として、地域課題の解決に向けた具体的な活動案を考えながら、地域分権制度についての意見をいただくため、「第3回地域夢・未来カフェ in 川西」が開催されました。

日時：2012年11月26日（月）19:00～21:00

場所：川西小 やなぎホール

参加人数：市民22名+市WGメンバー2名

当日のスケジュール

- 19:00 開会
- 19:15 当日スケジュール説明・ふりかえり
- 19:25 イントロダクション
- 19:35 テーブルワーク（活動案のとりまとめ）
- 20:40 グループ発表
- 20:55 今後の流れの説明
- 21:00 閉会

当日スケジュール説明～イントロダクション

まず、当日のスケジュールの説明があり、前回までの話し合いを踏まえ最終的な活動案にとりまとめていくことの確認が行われました。また、テーブルワークに入る直前には、イントロダクションとして、アイデアが膨らむ楽しい議論にするための「Yes, and」の考え方についてレクチャーがありました。



テーブルワーク～グループ発表

各グループのテーマ

- Aグループ：地域のふれあいが感じられるまちにする
- Bグループ：地域活動を活性化させる
- Cグループ：安心・安全なまちをつくる

テーブルワークでは、第2回に引き続いて活発な議論が行われ、最終的な活動案がとりまとめられました。できあがった活動案については、各グループから全体に向け発表しました。

Aグループでは、あいさつが飛び交う明るいまちづくりについて、Bグループでは地域活動を活性化させるための地域内の取組について、Cグループでは、安心・安全な防災マップについての話し合いが行われ、発表されました。



Aグループ 地域のふれあいが感じられるまちにする

あいさつが飛び交う明るいまちづくり

活動の背景と目的

- ・ 1人暮らしの高齢者が多い
- ・ あいさつは基本である
- ・ 明るいまちができる
- ・ あいさつは人と人の絆が深まる
- ・ 防犯面でも良い影響がある

活動主体と連携者、意思統一の場

- ・ 中心はコミュニティ
- ・ 連携する主体として、消防団やPTA、幼稚園
保育所、自治会など
- ・ コミュニティの場で意思統一を図る
- ・ 家庭へ広げてもらう
- ・ 自治会単位で進めていく
- ・ ライオンズクラブやロータリークラブ、商工組合、
事業組合などにも協力してもらう

活動をはじめるための条件、 取組内容のアイデアなど

- ・ みんなでやっている雰囲気を出す
- ・ 知らない人でも声をかける
- ・ 誰もが気軽にあいさつする
- ・ あいさつ部隊を募る
- ・ モデル地区を決める
- ・ あいさつキャンペーンをする
- ・ あいさつの標語づくりを学校と連携してやる
- ・ のぼりを作って標語を入れる
- ・ あいさつゆるキャラをつくる
- ・ きんたくんを活用する
- ・ 3か所の正門で、きんたくんがあいさつする
- ・ 機関誌に「あいさつしよう」と入れる
- ・ 挿絵を入れる

行政からの必要な支援

- ・ のぼり、ゆるキャラなどの製作費



Bグループ 地域活動を活性化させる

前提

- ・地域の課題を地域で解決することが地域分権
- ・誰もが「やります」では、収集がつかない
- ・まとめ役が必要である
- ・「参画と協働のまちづくり推進条例」をベースにすること
- ・まちづくり＝地域分権である
- ・「地域」といっても、いろんな括りがある（自治会、学校区、氏子など）
- ・今やっている取組の中で、既に地域分権に該当するものはないか？

行政→地域

- ・行政でカバーできない部分を委託型とする
- ・行政から「こういうことができないか」という提案もあり＝委託
- ・地域発意で行政にお願いするパターンもあるのでは？
- ・同じようなことを幾つもやっていることをまとめることも必要ではないか？

活動主体

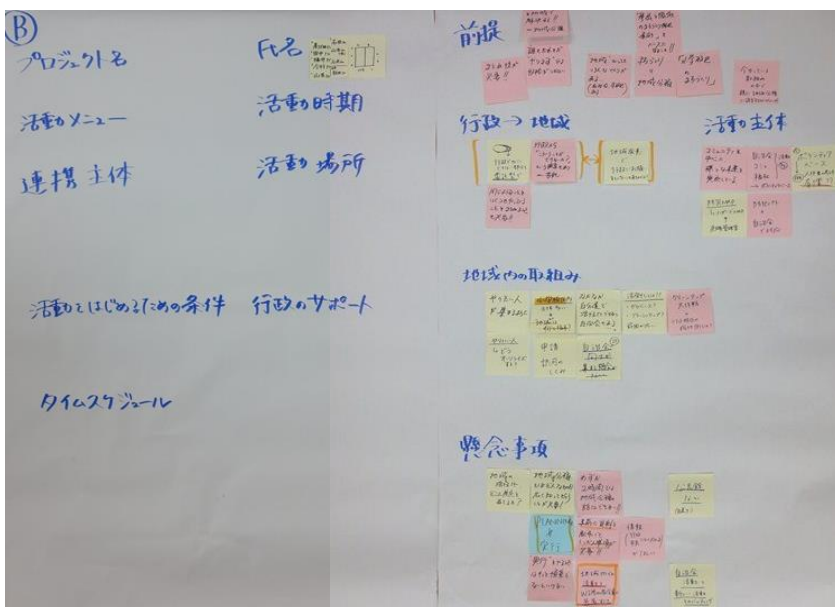
- ・コミュニティを中心に、様々な事業を実施している
- ・自治会、コミュニティは福祉の活動が多いがボランティアベースである
- ・現在はボランティアベースだが、将来は人件費の考え方（有償ボランティア）を取り入れる

地域内の取組

- ・やりたい人が集まるようにする
- ・やりたい人←どうオーソライズする？
- ・申請、認可のしくみをつくる
- ・なかなか自分たちで活性化できない自治会もある
- ・活性化とは何か？範囲が広い
- ・自治会同士が集まる機会がない
- ・クリーンアップ大作戦は川西小学校区の成功例ではないか？

懸念事項

- ・地域の活性化はどこに焦点を当てるのか？
- ・地域分権とはどんなものか、広く知ってもらうことが必要である
- ・PLANNING≠実行
- ・実行するときは、もっと慎重でないといけない
- ・わずか2時間では、地域分権の話はできない
- ・事前に資料を配布して、しっかりとした準備が必要である
- ・地域内での活動を、WS参加者全員で共有すべきである
- ・自治会活動と新しい活動とのバッティングが懸念される
- ・公民館がない



Cグループ 安心・安全なまちをつくる

川西小安心安全防災マップ（仮）

活動の背景と目的

- ・全市的な防災マップはあるが、川西小エリアのものは無い
- ・川西小学校区の防災マップづくり
- ・主に水害時に活用できるもの

活動の連携主体、意思統一の場

- ・自治会（地域情報、住民情報）、小学校（授業と連携）、大学生や大学の研究室
- ・民生委員、自主防災組織

活動をはじめめるための条件、取組内容のアイデア、コンテンツなど

- ・子どもの視点を盛り込む
- ・要介護者など、移動弱者の情報を記載する
- ・各家庭の決め事を記載してもらう部分が必要（例：約束事、連絡先）
- ・民間（ビル・マンション）との連携→高層の避難場所の確保

愛着を持ってもらうために

- ・自分ごとにしてもらおう→各世帯が載っている
- ・全市の要介護者のデータベース→地域が持っている
- ・制作に地域の人自身が関わる
- ・デザイン（美しさ、かわいさ）、見やすさ

行政からの必要な支援

- ・製作費など予算面の支援

具体的タイムスケジュール

- ・早くて次年度から徐々に

